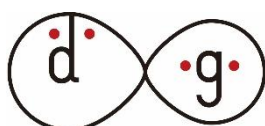


令和8年度（2026年度）

講義概要

こころの時代を、ささえる人へ。

[理学療法学科]



ありがとう、と言われること。

電波学園

授業概要			
心理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	増谷 千晶	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 基本的な心理学理論を理解し、人と人、人と外界がどのように関係しあっているのかを把握する。その上で、対人援助職としての注意点等を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 心理学とは何か、人間の言動にはどのような特徴があるのかを考え、理解していく。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 対人援助をしていく上で、他者理解、あるいは自己理解の重要性に気づき、実際の現場でそれを生かせるようにする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	なぜ心理学を学ぶのか		
2	I C F		
3	心理学の歴史		
4	心の可視化・研究法		
5	応用心理学・感覚		
6	知覚		
7	注意・認知・情動		
8	動機づけ・パーソナリティ		
9	社会の中での行動		
10	記憶		
11	学習		
12	言語・概念のしくみ		
13	発達理論		
14	青年期・成人期・老年期		
15	全体的なまとめ・過去問		
[使用テキスト・参考文献] リハベーシック 心理学・臨床心理学		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60%以上合格	

授業概要			
情報と社会	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		演習	矢島親男・丹羽 隆仁
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	2(30)	1 年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 社会常識となりつつあるパソコン知識を習得し、「情報」を活用するための操作（オペレーション）を主とし、オペレーション技術の到達と Web 利用の基礎を学び、情報活用の基本的知識と技能を習得する。また、「情報と社会」の観点から、国際問題の理解と情報収集の整理についても学んでいく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 理学療法士の実践研究におけるデータ活用のため、統計学の活用を学ぶ。簡単な関数を使用してデータベース概念の一端を演習を通じて習得。各種研究発表の場面で活用できるようにする。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ワードプロ、表計算、Web（インターネット検索・e-Mail）操作。ホームページ作成、プレゼンテーションツールの操作等々。入門レベルのオペレーション技術の習得。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	パソコンの操作 1		
2	電子メールの基礎		
3	国際問題の理解		
4	情報収集と整理		
5	ワードプロの基礎 1		
6	ワードプロの基礎 2		
7	ワードプロの基礎 3		
8	ワードプロの基礎 4		
9	ワードプロの基礎 5		
10	表計算の基礎 1		
11	表計算の基礎 2		
12	表計算の基礎 3		
13	表計算の基礎 4		
14	プレゼンテーションツールの活用 1		
15	プレゼンテーションツールの活用 2		
<p>【使用テキスト・参考文献】 windows10 対応 30 時間でマスター o f f i c e 2016</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・学則第 16 条の 1、2、3、4、5 項を基準とする。 提出物の提出状況及び出席率 40%、定期試験 60% 上記比率の下、60 点以上のものを合格として単位認定</p>	

授業概要			
トレーニング学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	藤原 美咲	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	2(30)	1 年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会（JATI：Japan Association of Training Instructors）が認定する JATI 認定トレーニング指導者の資格取得を目指す。トレーニング指導者が科学的根拠に基づいて活動するための必須の知識を獲得することを目指す。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 JATI 認定トレーニング指導者は「対象や目的に応じた科学的根拠に基づく適切な身体運動のプログラムを作成、これを効果的に指導・運営するための知識と技能を有する専門家」と定義される。トレーニング指導者における必要な知識を高めるための内容を講義する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するための知識を獲得する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	トレーニング指導者の役割		
2	トレーニング指導者の実務		
3	体力トレーニング総論		
4	バイオメカニクス（1）基礎理論		
5	バイオメカニクス（2）スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス		
6	運動生理学（1）呼吸循環器系・エネルギー代謝と運動		
7	運動生理学（2）骨格筋系・神経系・内分泌系と運動		
8	運動と栄養（1）運動と栄養の基礎理論		
9	運動と栄養（2）対象と目的に応じた栄養摂取		
10	運動と心理（1）運動と心理の基礎理論		
11	運動と心理（2）運動学習と指導法		
12	運動と医学（1）生活習慣病		
13	運動と医学（2）スポーツ傷害		
14	運動と医学（3）救命救急法		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 トレーニング指導者テキスト〔理論編〕3訂版 トレーニング指導者テキスト〔実践編〕3訂版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 出席点 10 点 課題・小テスト 30 点 定期試験 60 点 合計 100 点 60 点以上合格</p>	

授業概要			
障がい者スポーツ学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	洪澤 里香	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 初級パラスポーツ指導員の資格を取得し、障がいやパラスポーツ、安全管理等に関する基礎的な知識や障がい者に対応するための基本的な技術を持ち、地域に住む障がい者を運動やスポーツへと導く能力を培う。また運動やスポーツの楽しさ、基本的な運動の仕方やその意義や価値を伝えることができるようになる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 障がいやパラスポーツ、安全管理等に関する基礎的な知識や障がい者に対応するための基本的な技術を学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 地域の大会や行事に積極的に参加し、指導員組織の事業にも積極的に参加し、地域のパラスポーツ振興を支える。また中級パラスポーツ指導員資格取得をめざすなど自己研鑽を積むようにする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質 内容：スポーツにおけるインテグリティの理解について パラスポーツ指導員の資質や心構えについてなど		
2	パラスポーツの意義と理念 内容：障がい者個々人・スポーツ界・社会一般に及ぼす効果について 医師グッドマン博士の考え方について、パラスポーツの5つの理念について		
3	コミュニケーションスキルの基礎 内容：コミュニケーションスキルについての理解、障がい者の特性に応じたコミュニケーション方法について		
4	障がいのある人との交流 内容：障がい者にとってのスポーツの必要性・意義や価値について		
5	パラスポーツ推進の取り組み 内容：各都道府県・政令指定都市のパラスポーツ推進の現状と課題について パラスポーツ指導者制度の概要、資格取得方法について		
6	パラスポーツに関する諸施策 内容：障がい者福祉施策やパラスポーツに関する施策について		
7	安全管理 内容：スポーツ指導者の安全配慮義務について、基本的な対処法について、ヒヤリ・ハット事例		
8	各障がいの理解① 内容：肢体不自由、視覚障がい、聴覚・音声言語障がいなどについて		
9	各障がいの理解② 内容：内部障害について		
10	各障がいの理解③ 内容：知的障がい・発達障がいについて		
11	各障がいの理解④ 内容：精神障がいについて		
12	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫① 内容：各障がい特性に応じた工夫の基本的な視点と方法について、 用具やルールの工夫や考え方について、誰でも参加できるスポーツやイベント等の立案について		
13	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫② 内容：各障がいの特性・運動およびスポーツの効果・スポーツ 指導の留意点について、対象者の状況に応じた指導案の立案について		
14	全国障害者スポーツ大会の概要 内容：全国障がい者スポーツ大会の歴史・開催の意義目的について 競技規則の原則について、競技の紹介		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 改訂版 障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020年改訂カリキュラム対応</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 試験（小テスト、期末テスト）50点 発表・実践 30点 平常点（出席、授業態度）20点 合計 100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
健康と運動	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	八木 佑介・渋澤 里香	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	2(30)	1 年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 心身の健康についての理解を深め、自らの健康管理を考えることを目的とする。また、身体・精神面に与える各種運動の特性を知る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 医療の観点から、心身の健康について学び、実際にレクリエーションや障害者スポーツを体験する。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 健康で安全に留意する能力を身に付け、グループで協力して実施できる能力を習得する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション・総論 (講義)		
2	現代社会と健康 (講義)		
3	運動と健康 (講義)		
4	レクリエーションについて (講義)		
5	レクリエーション (グループ学習①)		
6	レクリエーション (グループ学習②)		
7	レクリエーション (グループ学習③)		
8	レクリエーション発表 (実技①)		
9	レクリエーション発表 (実技②)		
10	レクリエーション発表 (実技③)		
11	レクリエーション発表 (実技④)		
12	障がい者スポーツについて (講義)		
13	ボッチャ (実技①)		
14	ボッチャ (実技②)		
15	振り返り		
<p>【使用テキスト・参考文献】 実技の際は、ジャージなど体を動かせる服に着替えること。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 発表 80%、平常点 (出席・授業態度) 20% 60 点以上合格</p>	

授業概要			
総合学習論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		講義	田端 吉彦・渋澤 里香・岡本 美幸 八木 佑介・尾関 直洋・藤原 美咲
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
30 回	2(60)	1年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 専門科目を学習していく上で必要な読解力, 表現力, 基礎知識を養う。 病理学を学ぶことにより, 疾患について総合的な知識と応用力を養っていく。OSCE では, 実習に向けての準備を行う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 基礎科目の理解と専門科目への備えとして, 文章読解力・分析力・作成力・伝達力の向上をはかり, 基礎科目の再確認をする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 理学療法の礎となる学びを深め, 実習に備える。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	OSCE(概要、標準予防策)		
2	OSCE(リスク管理)		
3	OSCE(コミュニケーション技法)		
4	OSCE(車椅子の駆動介助)		
5	OSCE(療法士面接)		
6	OSCE(脈拍と血圧の測定)		
7	OSCE(関節可動域測定)		
8	OSCE(形態測定)		
9	実習準備①		
10	実習準備②		
11	実習準備③		
12	実習準備④		
13	実習準備⑤		
14	実習準備⑥		
15	実習準備⑦		
16	実習準備⑧		
17	基礎科目総復習①		
18	基礎科目総復習②		
19	基礎科目総復習③		
20	基礎科目総復習④		
21	基礎科目総復習⑤		
22	基礎科目総復習⑥		
23	基礎科目総復習⑦		
24	基礎科目総復習⑧		
25	基礎科目総復習⑨		
26	基礎科目総復習⑩		
27	基礎科目総復習⑪		
28	基礎科目総復習⑫		
29	基礎科目総復習⑬		
30	基礎科目総復習⑭		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法・作業療法学 病理学、解剖学、生理学運動学 PT・OT のための臨床技能と OSCE		[単位認定の方法及び基準] 出席点 50 点 基礎科目小テスト 50 点 合計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
人間関係とコミュニケーション	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	尾関 直洋	無
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 患者・利用者との良好な人間関係の構築を目的に、人間関係論、コミュニケーション論を学ぶ。 理学療法士が狭い経験や専門性だけに依拠せず、広く人間を捉え謙虚に学び続けることを基礎とする。そして、その上に“医療の目”を育てるために、人間の尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性、医療における倫理的課題について考えさせる。併せて、人間として必要なコミュニケーションの基礎を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 人間の心理学的理解から人間関係の心理、人間関係形成のプロセスを概観し、活動の場に観る人間関係を知り、コミュニケーションの構成要素、態様を捉え、技法演習を通して自らのコミュニケーション能力を認識する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 コミュニケーションの構造を理解し、理学療法士として活動する場における自己のコミュニケーション上の課題を見出す。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	医療者を目指すあなたへ		
2	自分を知る		
3	他者から見た自分		
4	自分の態度		
5	人間の心を理解する		
6	対人コミュニケーション分析		
7	人間関係の基本「ストローク」		
8	コミュニケーションの基本的知識		
9	相手を知るための観察のしかた		
10	よい聴き手になるための聴きかた		
11	伝わる伝えかた		
12	自分も相手も大切にしたい伝えかた		
13	自己管理①（時間管理と健康管理）		
14	自己管理②（感情管理）		
15	自己存在と自己実現		
[使用テキスト・参考文献] 適宜資料を配布する。		[単位認定の方法及び基準] 定期試験により 60%以上を合格とする。	

授業概要			
解剖学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	畑山 直之・福重 香	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 医学の基礎と根幹をなす人体の構造について、理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 基本的な人体構造を理解し、神経系、脈管系、感覚器系、内臓系などの基礎知識を系統的に習得する。講義は器官系ごとに行うが、他の器官系との相互関係・作用について、また疾患や治療など臨床的側面について、常に意識し個々の知識を幅広く絡めて理解すること。この科目は、総論である人体のあらましをはじめ、神経系、脈管系を中心に講義を行う</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 細胞、組織、器官さらに各器官系の相互的構造・作用 (人体のあらまし) について理解できる。神経系 (中枢神経、末梢神経) 脈管系 (心臓、全身の動脈、静脈) について説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	人体のあらまし		
2	中枢神経系①		
3	中枢神経系②		
4	中枢神経系③		
5	中枢神経系④		
6	中枢神経系⑤		
7	末梢神経①		
8	末梢神経②		
9	末梢神経③		
10	末梢神経④		
11	循環器系①		
12	循環器系②		
13	循環器系③		
14	循環器系④		
15	循環器系⑤		
[使用テキスト・参考文献] 「標準理学療法・作業療法学 解剖学第 6 版」医学書院 「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60 点以上合格とする。	

授業概要			
解剖学Ⅱ（骨格・関節靭帯）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	八木 佑介	有
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 理学療法士として欠かせない骨格・関節靭帯の解剖を中心に、人体構造の把握とその機能について学習することを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 医療従事者として欠かすことのできない解剖学（骨格・関節靭帯）について、人体構造の把握や位置関係、機能を理解し学習する。また、講義に小テストを取り入れていく。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 骨・関節靭帯では、人体構造を3次的に理解し、部位の名称を正確に学習する。 また、人体における内部構造の指標となる体表部位を理解し説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	解剖学総論		
2	骨格系総論		
3	脊柱①		
4	脊柱②		
5	上肢①		
6	上肢②		
7	上肢③		
8	骨盤		
9	下肢①		
10	下肢②		
11	下肢③		
12	頭蓋		
13	関節構造と機能		
14	関節と靭帯		
15	解説・まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 「標準理学療法・作業療法 解剖学 第5版」医学書院、		[単位認定の方法及び基準] 試験 60点、平常点 40点（小テスト 40点） 計 100点 60点以上合格	

授業概要			
解剖学Ⅲ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	畑山 直之・福重香	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	1 年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 医学の基礎と根幹をなす人体の構造について、理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 基本的な人体構造を理解し、神経系、脈管系、感覚器系、内臓系などの基礎知識を系統的に習得する。講義は器官系ごとに行うが、他の器官系との相互関係・作用について、また疾患や治癒など臨床的側面について、常に意識し個々の知識を幅広く絡めて理解すること。この科目は、感覚器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系など内臓系を中心に講義を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 感覚器系 (体性感覚・特殊感覚)、消化器系 (消化管系、肝臓、胆嚢、膵臓)、呼吸器系 (上気道・下気道、肺)、泌尿器系 (腎臓、尿路)、生殖器 (男性、女性生殖器) について説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	泌尿器①		
2	泌尿器②		
3	生殖器①		
4	生殖器②		
5	呼吸器①		
6	呼吸器②		
7	呼吸器③		
8	消化器①		
9	消化器②		
10	消化器③		
11	消化器④		
12	感覚器①		
13	感覚器②		
14	感覚器③		
15	感覚器④		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準理学療法・作業療法学 解剖学第 5 版」医学書院 「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60 点以上合格とする。小テスト、レポート課題、受講態度を加味する場合がある。</p>	

授業概要			
解剖学Ⅳ（筋系・神経系）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	八木 佑介	有
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 理学療法士として欠かせない筋・神経系の解剖を中心に、人体構造の把握とその機能について学習することを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 筋学・神経学の総論を講義した後、それぞれの筋・神経の位置関係、機能を理解し、学習する。また、講義に小テストを取り入れていく。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 筋学では、体幹・上肢・下肢の必要筋群を理解し、その位置関係・作用等が説明できることを目標とする。また、神経学では、中枢神経・末梢神経の解剖学的役割を理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	筋系 総論①		
2	筋系 総論②		
3	体幹筋群について①		
4	体幹筋群について②		
5	上肢筋群について① 肩関節周囲筋		
6	上肢筋群について② 上腕部周囲筋		
7	上肢筋群について③ 前腕部周囲筋		
8	上肢筋群について④ 手部周囲筋		
9	下肢筋群について① 股関節周囲筋		
10	下肢筋群について② 大腿部周囲筋		
11	下肢筋群について③ 下腿周囲筋		
12	下肢筋群について④ 足部周囲筋		
13	末梢神経について①		
14	末梢神経について②		
15	まとめ 総復習		
[使用テキスト・参考文献] 「標準理学療法・作業療法 解剖学 第5版」医学書院、 「骨格筋の形と触察法 第2版」大峰閣		[単位認定の方法及び基準] 試験 80点、平常点 40点（小テスト 40点） 計 100点 60点以上合格	

授業概要			
解剖学実習 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	渋澤 里香・八木 佑介	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	1 年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 1 年前期で学習した解剖学を三次元的に理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人体各部のイラストに彩色することにより、組織や器官の相互関係を把握し、三次元的な構造を理解する。組織器官の機能についても解説し理解を深める。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 骨格筋・関節の名称や位置関係を理解し、それらを三次元的にイメージできることを目標とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	人体のオリエンテーション		
2	細胞と組織 外皮系		
3	骨格と関節		
4	骨格と関節 上肢		
5	骨格と関節 下肢		
6	筋系 頭頸部		
7	筋系 体幹		
8	筋系 上肢		
9	筋系 下肢		
10	中枢神経		
11	末梢神経		
12	心血管系		
13	解剖見学実習オリエンテーション		
14	解剖見学実習準備①		
15	解剖見学実習準備②		
<p>[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法・作業療法 解剖学 「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」医学書院 彩色用資料配付 彩色用の色鉛筆など用意すること</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 授業終了後に彩色資料を含むノート提出(課題) 出席 20 点, 授業態度 20 点, 課題 60 点 計 100 点 60 点以上合格</p>	

授業概要			
解剖学実習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	渋澤 里香・八木 佑介	有
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 1年前期で学習した解剖学を三次元的に理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人体各部のイラストに彩色することにより、組織や器官の相互関係を把握し、三次元的な構造を理解する。組織器官の機能についても解説し理解を深める。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 骨格筋・関節の名称や位置関係を理解し、それらを三次元的にイメージできることを目標とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	リンパ系		
2	免疫系		
3	呼吸器系		
4	消化器系		
5	泌尿器系		
6	内分泌系		
7	人体の発生		
8	解剖見学実習 グループ学習①		
9	解剖見学実習 グループ学習②		
10	解剖見学実習 グループ学習③		
11	解剖見学実習 グループ学習④		
12	解剖見学実習 振り返り①		
13	解剖見学実習 振り返り②		
14	解剖見学実習 振り返り③		
15	解剖見学実習 振り返り④		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準理学療法・作業療法 解剖学		授業終了後に彩色資料を含むノート提出(課題)	
彩色用資料配付		出席 20 点, 授業態度 20 点, 課題 60 点 計 100 点	
彩色用の色鉛筆など用意すること		60 点以上合格	

授業概要			
機能解剖学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		演習	八木佑介・尾関直洋・渋澤里香・藤原美咲
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	2(60)	1年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 理学療法士に必要な触察について学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 筋肉・骨・神経・血管について、実習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 理学療法士において必要な触察技術を身につけることができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション①		
2	オリエンテーション②		
3	体幹の骨①		
4	体幹の骨②		
5	上肢の骨①		
6	上肢の骨②		
7	下肢の骨①		
8	下肢の骨②		
9	体幹の筋（後面）①		
10	体幹の筋（後面）②		
11	体幹の筋（前面）①		
12	体幹の筋（後面）②		
13	上腕の筋①		
14	上腕の筋②		
15	前半まとめ①		
16	前半まとめ②		
17	前腕の筋（前面）①		
18	前腕の筋（前面）②		
19	前腕の筋（後面）①		
20	前腕の筋（後面）②		
21	股関節周囲筋①		
22	股関節周囲筋②		
23	大腿前面①		
24	大腿前面②		
25	大腿後面の筋①		
26	大腿後面の筋②		
27	下腿前面の筋①		
28	下腿前面の筋②		
29	総復習①		
30	総復習②		
<p>[使用テキスト・参考文献] 骨格筋の形と触察法 第2版 大峰閣 触察できる服装を用意すること ウエットティッシュも各自用意すること</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 実技試験 40点, 筆記試験 20点, 小テスト 40点 合計 100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
生理学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	宮津 真寿美	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	1 年 前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 生理学とはどのような仕組みで私たちの体が正常に機能しているのかを追求する学問である。人体のさまざまな器官は、たくみに機能しており、それらの働きは驚くほど精妙に調整されている。この正常な仕組みが破たんすると、疾病になる。医療専門職をみざすにあたって、体の正常な仕組みを学ぶことは大事である。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 生理学 I では、神経系、筋系、骨格系、感覚系などの動物性器官において、我々の体がどのように機能しているかを学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 神経系、筋系、骨格系、感覚系などの動物性器官における各器官の特徴と機能が説明できる。 器官内、器官間の調整機能が説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	生理学総論：生理学とは、身体の階層性、生命現象		
2	生理学総論：水、体温、ホメオスタシスと負のフィードバック		
3	細胞の構造と機能：細胞膜、核、細胞小器官 細胞の構造と機能：静止電位と活動電位		
4	神経の興奮伝導と末梢神経：神経細胞の構造、興奮の発生と伝導、末梢神経の種類		
5	神経の興奮伝導と末梢神経：自律神経		
6	神経の興奮伝導と末梢神経：シナプスにおける興奮の伝達 中枢神経系：中枢神経とは、脊髄		
7	中枢神経系：脳幹、小脳		
8	中枢神経系：間脳、大脳皮質、脳の高次機能、大脳基底核、辺縁系、脳室と脳脊髄液・血液脳関門		
9	筋と骨：筋の分類、骨格筋（構造、神経による支配、興奮収縮連関、骨格筋の収縮）		
10	筋と骨：骨格筋（骨格筋線維の種類、肥大と萎縮、筋紡錘と Golgi 腱器官、筋電図）		
11	筋と骨：心筋、平滑筋、骨		
12	感覚：感覚とは、体性感覚、内臓感覚		
13	感覚：特殊感覚（視覚）		
14	感覚：特殊感覚（聴覚と平衡感覚、味覚、嗅覚）		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 生理学第 6 版		筆記試験 60 点以上合格。	

授業概要			
生理学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	宮津 真寿美	有
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	1年 後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 生理学とはどのような仕組みで私たちの体が正常に機能しているのかを追求する学問である。人体のさまざまな器官は、たくみに機能しており、それらの働きは驚くほど精妙に調整されている。この正常な仕組みが破たんすると、疾病になる。医療専門職をみざすにあたって、体の正常な仕組みを学ぶことは非常に大事である。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 生理学Ⅱでは、循環系、呼吸系、泌尿器系、消化器系、内分泌系などの植物性器官において、我々の体がどのように機能しているかを学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 循環系、呼吸系、泌尿器系、消化器系、内分泌系などの植物性器官における各器官の特徴と機能が説明できる。器官内、器官間の調節機能が説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	血液：血液の組成と機能，赤血球		
2	血液：白血球，血小板，血漿，血液型		
3	心臓と循環：血液の循環，心臓の興奮と刺激伝達系，心電図		
4	心臓と循環：血液の拍出と血圧，心周期，前負荷・後負荷と収縮性，心機能曲線		
5	心臓と循環：血圧の調整，微小循環と物質交換，静脈還流，臓器循環，リンパ循環		
6	呼吸：外呼吸と内呼吸，気道と肺胞，呼吸運動，呼吸気量，ガス交換とガス運搬		
7	呼吸：呼吸の調節，病的呼吸 尿の生成と排泄：腎臓の役割，腎臓の構造		
8	尿の生成と排泄：尿の生成，クリアランス，排尿，尿の性状と排尿異常		
9	尿の生成と排泄：酸塩基平衡 消化と吸収：消化器の役割，口腔内消化と嚥下，食道における食物輸送		
10	消化と吸収：胃の役割と消化，十二指腸における消化，空腸・回腸における消化と栄養素の吸収，大腸の役割，肝臓の役割		
11	内分泌：内分泌機能とホルモン，各腺から分泌させるホルモンの作用		
12	生殖と発生・成長と老化：男性生殖機能，女性生殖機能，受精，着床，胎児の発生，成長と老化		
13	運動生理学：筋力と持久力，筋収縮のエネルギー源，運動に伴う全身の変化，トレーニングの効果，加齢変化		
14	栄養と代謝：栄養，代謝		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 生理学第6版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60点以上合格。	

授業概要			
運動学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	田端 吉彦	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	1 年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 人体の運動を構成する骨・関節・筋の構造と機能を理解し、身体運動がどのような力学的・生理学的メカニズムによって生じるかを学ぶ。さらに、姿勢や基本動作を運動学的視点から分析する基礎能力を養い、将来的な臨床評価や運動療法の理解につなげる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 本授業では、人体の運動を理解するために必要な基礎知識として、関節運動、筋機能、運動連鎖、姿勢制御などの運動学的概念を学習する。また、これらの知識を基に、臨床における姿勢評価や動作分析の基礎となる考え方を理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 人体の主要関節の構造と運動様式を説明でき、関節運動との関係を説明できる。また、身体運動における運動連鎖の基本概念を理解し、姿勢評価や動作観察に応用する基礎的能力を身につける。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	記憶と学習（運動学習）		
2	エネルギー代謝①		
3	エネルギー代謝②		
4	呼吸運動		
5	頸部の運動		
6	体幹の運動①		
7	体幹の運動②		
8	骨盤帯の運動①		
9	骨盤帯の運動②		
10	運動連鎖		
11	顔面筋		
12	運動の制御①		
13	運動の制御②		
14	運動学習		
15	解説・まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学基礎分野 運動学</p> <p>参考文献 標準理学療法学・作業療法学基礎分野 生理学 基礎運動学</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 期末試験 90% 課題学習 5% 出席状況 5% 60%以上合格</p>	

授業概要			
運動学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	岡本 美幸	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 人間が当たり前に行っている、日常の動作を、骨格筋や関節などの解剖的構造から、運動力学・神経系システムの運動制御・骨格のメカニズム等を学習することを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 日常生活動作における関節の動きや機能を運動学的観点から学習する。講義は教科書や配布資料、また必要に応じてPowerPoint を利用しながら進めていく。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 前期で学習した解剖・生理・運動学を基に、関節の動きを運動学的観点から考察できることを目標とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	関節の構造と種類		
2	上肢帯と上肢の運動①		
3	上肢帯と上肢の運動②		
4	上肢帯と上肢の運動③		
5	上肢帯と上肢の運動④		
6	上肢帯と上肢の運動⑤		
7	下肢帯と下肢の運動①		
8	下肢帯と下肢の運動②		
9	下肢帯と下肢の運動③		
10	下肢帯と下肢の運動④		
11	下肢帯と下肢の運動⑤		
12	姿勢・重心について		
13	歩行周期について①		
14	歩行周期について②		
15	まとめ 総復習		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学基礎分野 運動学 基礎運動学</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 試験 90点, 平常点 10点 (出席 5点, 課題学習 5点) 計 100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
運動生理学演習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		演習	洪澤 里香・岡本 美幸・尾関 直洋・藤原 美咲
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>本授業では、人の身体が運動に応じてどのように生理的・運動学的に変化するかを、実測や観察を通して理解し、理学療法士として必要な「身体を科学的に捉える視点」を身につけることを目的とします。運動学的分析、筋活動の評価、姿勢制御の解析、体圧分布の測定など、臨床場面で必要とされる評価手法を実践的に学びながら、根拠に基づくりハビリテーションの基盤を形成することをねらいとします。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>本授業は、「運動学的アプローチ」と「生理学的アプローチ」の両面から身体の機能を評価・解析する演習です。演習を通じて「観る」「測る」「考察する」「説明する」力を段階的に養成し、将来の臨床現場で応用可能な運動評価能力を高めます。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>本授業を通じて、身体運動に伴う生理学的・運動学的変化を科学的に理解し、それらを適切に評価・分析する能力を身につけることを目指します。また、観察・分析した内容をグループで共有し、ディスカッションを行うことで、多角的な視点を持って対象者の状態を理解し、適切な運動療法の方針を立てる力を育みます。これにより、理学療法士としての科学的思考力、実践力、コミュニケーション力を総合的に高めることを目指します。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	運動学実習①：肩甲上腕リズムの計測		
2	運動学実習②：肩関節内外旋角度の計測		
3	運動学実習③：股関節の関節運動における二関節筋の影響		
4	運動学実習④：足アーチの観察		
5	運動学実習⑤：安静立位姿勢のアライメント評価		
6	運動学実習⑥：機能的上肢到達検査		
7	筋電図		
8	バイオデックス①		
9	バイオデックス②		
10	重心動揺計①		
11	重心動揺計②		
12	マイオモーション①		
13	マイオモーション②		
14	体圧分散①		
15	体圧分散②		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準理学療法学・作業療法学基礎分野 運動学 標準理学療法学・作業療法学基礎分野 生理学		課題点、平常点を合算した 合計 100点 60点以上合格	

授業概要			
人間発達学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		講義	森 明美
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8	1(15)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 人間発達を生涯発達という視点で、胎生期から老年期に至るまでの発達段階ごとに、それぞれの身体、運動、認知機能、社会生活、心理面等での発達の特徴、課題を理解する。その中で定型発達についての知識を得ることで、臨床場面で出会う多様な個人を発達という観点から理解できるようにする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 人間の発達をそれぞれの時期に分け、その時期での定型発達を学ぶ。特にリハビリテーションに必要となる各時期での特徴を知る。また、自身の発達を振り返り、より具体的に人間発達を学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 人間の発達における定型発達を理解し、臨床場面で出会う対象者を発達という観点から理解し、多様性のある中でもそれぞれの個人の発達特徴・発達課題について考えられるようにする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	胎生期		
2	新生児期の発達		
3	乳児期の発達		
4	新生児期から幼児期の運動機能の発達		
5	児童期,青年期の発達		
6	成人期から老年期		
7	老年期		
8	発達検査、発達上の問題		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法・作業療法 「人間発達学」 第3版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験 80点 平常点 (レポート課題) 20点 60点以上合格</p>	

授業概要			
臨床心理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	森 明美	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8	1(15)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 医療従事者として、現場で必要とされる臨床心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、対人援助職として対象者を個別に理解し、どのように関わっていけばいいかを考える機会とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 誰にでも起こりうる「こころの問題」を理解するために、人格理論、心理アセスメントについて学ぶ。また対象者にアプローチする方法として様々な心理療法についての知識を得る。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 対人援助職に必要な人格理論、心理アセスメント、心理療法の用語が具体的に理解できている。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	防衛機制		
2	支援のキー概念・障害受容		
3	心理アセスメント①		
4	心理アセスメント②		
5	心理療法①行動的		
6	心理療法②内面的		
7	心理療法⑥相談的		
8	臨床心理学の倫理、職域、社会的連携		
[使用テキスト・参考文献] リハベーシック 心理学・臨床心理学 第2版		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60点以上合格	

授業概要			
内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	小松 弘和	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
3回		1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 造血組織，造血機構，造血幹細胞について理解する。 白血病，リンパ腫，骨髄腫といった造血器腫瘍の診断，治療を理解する。 血友病，血小板減少症といった出血性疾患及び血栓性疾患を理解する。 鉄欠乏性貧血をはじめ，代表的な貧血性疾患を理解する。 造血幹細胞移植を含め，最新の血液学の診断，治療の進歩を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 造血機構及び造血器疾患，出血性疾患，血栓性疾患，貧血性疾患の診断，治療の解説</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 造血機構及び造血器疾患，出血性疾患，血栓性疾患，貧血性疾患の診断，治療についての理解を深められる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	造血機構，造血幹細胞の分化，機能，白血病，リンパ腫，骨髄腫		
2	出血性疾患と血栓性疾患，貧血		
3	造血幹細胞移植と最新の血液学の進歩		
<p>【使用テキスト・参考文献】 使用テキスト：標準理学療法学・作業療法学 内科学 参考文献：1. わかりやすい内科学 2. 老年医学テキスト</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60 点以上合格</p>	

授業概要			
内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	堀米 秀夫	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
12回	1(30)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 内科学の概念を学ぶ</p> <p>【授業全体の内容の概要】 内科学の概念から内科疾患を近年の現状を踏まえながら授業を進める</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 内科学の概念を学び、リハビリテーション施行時の事前知識や対応について理解する</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	内科学総論		
2	症候学		
3	消化器総論, 上部消化管		
4	下部消化管, 胆, 膵		
5	肝, 胃ろう		
6	循環器疾患①		
7	循環器疾患②		
8	呼吸器疾患①		
9	呼吸器疾患②		
10	代謝性疾患		
11	内分泌疾患		
12	腎・泌尿器疾患		
13			
14			
15			
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法学・作業療法学 内科学		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60点以上合格	

授業概要			
整形外科学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	近藤 喜久雄	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	2 年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 整形外科は運動器の疾患をあつかう科であり、脊椎、脊髄、体幹、上肢、下肢にわたり、あつかう組織は骨、筋腱、靭帯、関節、神経におよぶ。それぞれの部位ごとに機能解剖および先天疾患、変性疾患、外傷、炎症、腫瘍等の病的理解、治療法につき講義を行う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 整形外科基礎、画像診断、関節リウマチ、上下肢の関節疾患、腫瘍、感染症などについて講義を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 整形外科基礎および各疾患の病態、治療法について理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	第 I 偏第 1 章～第 4 章 P1-48 整形外科的基礎 骨の構造、骨の発生、骨の病態、骨の修復		
2	第 I 偏第 5 章～第 7 章 P49-73 整形外科的基礎 関節の構造、関節の病態、関節の修復		
3	第 I 偏 第 8 章～第 9 章 P74-87 筋神経の構造、痛みの基礎科学		
4	第 II 偏 第 10 章～第 13 章 P89-165 診療の基本 各種検査法		
5	第 III 偏 第 14 章～第 15 章 P171-209 保存療法、手術療法		
6	第 IV 偏 第 16 章～第 17 章 P219-269 軟部組織・骨・関節感染症、関節リウマチ		
7	第 IV 偏 第 18 章～第 19 章 P271-298 変形性関節症、四肢循環障害 第 22 章 P342-346 代謝性骨疾患		
8	第 IV 偏 第 20 章～第 22 章 P299-347 先天性疾患、骨粗しょう症		
9	第 IV 偏 第 23 章～第 24 章 P348-412 骨腫瘍、軟部腫瘍		
10	第 IV 偏 第 25 章～第 26 章 P413-437 神経筋疾患、ロコモティブシンドローム		
11	外傷学 (総論) 第 VI 編 整形外科外傷学 第 36 章 外傷総論, 第 37 章 軟部組織損傷 (P740-791)		
12	第 37-38 章 (P 792-862) 外傷学 (各論) 第 VI 編 整形外科外傷学(骨折・脱臼)		
13	第 39 章 (P 863-883) 第 40 章(P884-897) 脊椎・脊髄損傷、末梢神経損傷		
14	第 41 章 (P902-919) スポーツ損傷 第 VII 編 スポーツと整形外科		
15	整形外科一般 (まとめ) 重要事項確認、試験 (国試・定期試験) 対策		
[使用テキスト・参考文献] 標準整形外科学		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60 点以上合格	

授業概要			
整形外科Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	近藤 喜久雄	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 整形外科は運動器の疾患をあつかう科であり、脊椎、脊髄、体幹、上肢、下肢にわたり、あつかう組織は骨、筋腱、靭帯、関節、神経におよぶ。それぞれの部位ごとに機能解剖および先天疾患、変性疾患、外傷、炎症、腫瘍等の病態理解、治療法について学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 整形外科の基礎知識と関連事項</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 上記目的・ねらいの達成</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	第Ⅴ編 第27章 442-467 肩関節（機能解剖、診察・検査法、疾患）		
2	第Ⅴ編 第28章 468-483 肘関節（機能解剖、診察・検査法、疾患）		
3	第Ⅴ編 第29章 485-518 手関節と手（機能解剖、診察・検査法、疾患）①		
4	第Ⅴ編 第29章 485-518 手関節と手（機能解剖、診察・検査法、疾患）②		
5	第Ⅴ編 第33章 608-664 股関節（機能解剖、診察・検査法、疾患）		
6	第Ⅴ編 第34章 667-706 膝関節（機能解剖、診察・検査法、疾患）		
7	第Ⅴ編 第35章 708-734 足関節と足（機能解剖、診察・検査法、疾患）		
8	切断及び離断（標準整形外科に記述なし） 第Ⅶ編 第42章 915-917 パラスポーツ 第Ⅷ編 第44章 949-957 義肢		
9	運動器のリハビリテーション1 第Ⅷ編 第43章 922-947		
10	運動器のリハビリテーション2 第Ⅷ編 第43章 922-947		
11	熱傷（標準整形外科に記述なし）		
12	脊椎・脊髄の解剖、診察、疾患総論		
13	頸椎・胸椎疾患、RA、側彎症		
14	脊椎感染症、腰椎疾患、脊椎・脊髄腫瘍		
15	脊椎・脊髄損傷、まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 標準整形外科		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60点以上合格	

授業概要			
神経内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	畑山 直之・福重香	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	2(30)	2年 後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 神経系の基礎的な理解を深め、正常な神経の働きとそれに関連する疾患について学ぶことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 神経内科学の基礎知識と関連事項</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 神経内科の理解に必要な基本的事項を習得する</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	序論		
2	神経学的診断法		
3	神経学徴候学①		
4	神経学徴候学②		
5	神経学徴候学③		
6	神経学徴候学④		
7	神経学徴候学⑤		
8	神経学徴候学⑥		
9	神経疾患各論①		
10	神経疾患各論②		
11	神経疾患各論③		
12	神経疾患各論④		
13	神経疾患各論⑤		
14	神経疾患に多い合併症		
15	総まとめ		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学		定期試験, 60 点以上合格	

授業概要			
精神医学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	深津 尚史	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	2 年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 精神障害の分類や症状, 診断・評価など精神医学の基礎知識の習得を目的とする</p> <p>【授業全体の内容の概要】 精神医学総論・各論の全般的な講義を行う</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 精神障害を有する患者の理解に必要な基本的事項を習得する</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	神経心理的的症状 (意識・記憶・失語など)		
2	認知症		
3	てんかん		
4	症状性精神障害		
5	薬物依存・アルコール関係		
6	統合失調症		
7	気分障害		
8	不安性障害・ストレス関連障害		
9	解離性障害・心身症		
10	パーソナリティ障害・摂食障害		
11	睡眠障害		
12	発達障害		
13	精神療法 その1 (精神分析・来談者中心療法・心理検査)		
14	精神療法 その2 (認知行動療法)		
15	精神保健福祉法と医療観察法		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法学・作業療法学 精神医学		[単位認定の方法及び基準] 定期試験, 60 点以上合格.	

授業概要			
小児科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	伊藤 知美	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	2 年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 理学・作業療法を行う上で、必要な小児科学の知識を学び、現場での総合的な判断力を養う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 小児科の基礎知識と関連事項</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 上記、目的・ねらいの達成</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	小児科学総論①		
2	小児科学総論②		
3	小児科学総論③＋診断と治療		
4	新生児・未熟児総論		
5	先天異常と遺伝病①		
6	先天異常と遺伝病②		
7	神経・筋・骨系疾患①		
8	神経・筋・骨系疾患②		
9	循環器疾患		
10	呼吸気疾患		
11	感染症・消化器疾患①		
12	感染症・消化器疾患②内分泌・代謝疾患		
13	血液疾患，免疫・アレルギー疾患他		
14	腎，腫瘍性疾患他（テスト範囲の説明）		
15	試験解説，講義の総括・補足		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法学・作業療法学 小児科学		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60 点以上合格.	

授業概要			
老年学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	伊藤 知美	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 老年学の概念を学ぶ</p> <p>【授業全体の内容の概要】 老年学の概念，基礎知識を学び，高齢者医療におけるリハビリテーションの役割</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 老年学の概念，基礎知識を習得し，高齢者医療におけるリハビリテーションの役割を理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	序説～老化，加齢変化①生理機能		
2	加齢変化②運動機能，精神心理面 高齢者へのアプローチ／人口動態		
3	高齢者の機能評価①		
4	高齢者の機能評価②		
5	退院支援，老年症候群各論①		
6	老年症候群②		
7	循環器疾患		
8	呼吸器疾患		
9	消化器疾患		
10	骨・運動器疾患		
11	神経疾患，精神疾患		
12	神経疾患，精神疾患，内分泌代謝疾患		
13	血液・免疫疾患，腎・泌尿器疾患		
14	皮膚・口腔疾患，感染症 試験について		
15	試験解説 耳鼻咽喉疾患，眼疾患，ほか補足		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法・作業療法 老年学／医学書院		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60点以上合格。	

授業概要			
薬理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	齋木 寛	無
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8回	1(15)	2年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 【授業全体の内容の概要】 本講義では理学療法士や作業療法士において必要な薬理学の知識習得を目的として、指定テキストの内容に準じて講義を進めます。さらに近年の国家試験の出題傾向についても助言等を加えながら随時補足していきます。 【授業終了時の達成課題 (到達目標)】			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	薬理学総論 (薬理学の概要)		
2	薬理学総論 (薬の体内動態と薬理作用)		
3	薬理学総論 (薬物療法の基礎)		
4	臨床薬理学 (神経疾患・神経疾患の薬物療法)		
5	臨床薬理学 (循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患の薬物療法)		
6	臨床薬理学 (疼痛の制御・注意すべき薬物)		
7	重要事項の確認 (要点 Check)		
8	科目試験解説および総括		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
【使用テキスト・参考文献】 内山, 他「薬理学・臨床薬理学 第1版」医歯薬出版 資料配布や文献紹介を随時加えます。		【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
栄養学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義		有
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8回	1(15)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 栄養学は、食品の持つ栄養素やその働きについて学ぶ学問である。すなわち、食品が有する栄養素が分解され、消化管からの吸収、脂質代謝、食事摂取と運動について理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 栄養素の構造と機能を理解するために化学的な基礎知識と消化と吸収を理解するために人体の構造と機能を解剖学的・生理学的に学習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 運動や活動に必要なエネルギー量と栄養素を理解し、身体機能の改善、活動や社会参加の向上及び健康観の改善することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	栄養学総論		
2	蛋白質とアミノ酸		
3	糖質と脂質		
4	ビタミン エネルギー		
5	消化と吸収		
6	運動と栄養 リハビリと栄養		
7	主な病態の栄養管理		
8	静脈 経腸栄養 まとめ		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
<p>【使用テキスト・参考文献】 「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能③ 栄養学」医学書院 「リハベーシック 生化学・栄養学」医歯薬出版株式会社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験により 60%以上を合格とする</p>	

授業概要			
健康支援学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	尾関 直洋	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2(30)	2年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 救急救命や予防領域に関する基礎的知識の習得を目的とする。			
【授業全体の内容の概要】 救命処置を演習を通し学び、予防領域の基礎知識・グループ発表を通し、理学療法士が行える予防理学療法について理解を深めていく。			
【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 上記目的・ねらいの達成			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	一次救命処置 講義		
2	一次救命処置 演習①		
3	一次救命処置 演習②		
4	予防理学療法		
5	高齢期の予防理学療法		
6	地域における予防理学療法		
7	予防領域 グループワーク①		
8	予防領域 グループワーク②		
9	予防領域 グループワーク③		
10	予防領域 グループ発表①		
11	予防領域 グループ発表②		
12	予防領域 グループ発表③		
13	予防領域 グループ発表④		
14	予防領域 グループ発表⑤		
15	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 資料配布		【単位認定の方法及び基準】 グループ発表点 90点、 平常点 10点 (出席点・授業態度・感想文)	

授業概要			
リハビリテーション医学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	齊木 寛	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8回	1(15)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 リハビリテーション医学の歴史および本質について理解できるようにする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 リハビリテーション医学の歴史から、各疾患のリハビリテーションの流れを理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 各疾患におけるリハビリテーション医学の中で、理学療法が果たす役割を理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	リハビリテーション医学とは リハ医学の歴史		
2	障害分類		
3	リハビリテーションの過程 チーム医療とは		
4	脳血管障害のリハビリテーションの流れ		
5	大腿骨頸部骨折のリハビリテーション		
6	神経疾患のリハビリテーション		
7	小児のリハビリテーションの流れ		
8	リハ医学その他の疾患 試験対策		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60点以上合格. 出欠席	

授業概要			
リハビリテーション概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	洪澤 里香	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8回	1(15)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 リハビリテーションとは何かを学び、リハビリテーションという言葉の真の意味を理解し学習する。またリハビリテーションに関わる各専門職を理解し、リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を学習する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 リハビリテーションの定義・目的、障害の概念、チームアプローチについて講義する。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 リハビリテーションの概念、障害の概念を理解できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	リハビリテーションの定義と目的		
2	病気と障害、障害受容について		
3	リハビリテーションの領域、チームアプローチ		
4	チームアプローチと各種専門職との多職種連携		
5	人間発達とリハビリテーション		
6	障害観と国際障害分類、国際生活機能分類		
7	リハビリテーションと社会生活、社会保障論		
8	振り返り・まとめ		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
[使用テキスト・参考文献] 講義配布資料		[単位認定の方法及び基準] 試験 90点, 平常点 10点 (出席) 計 100点 60点以上合格	

授業概要			
作業療法学概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8回	1(15)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 本授業を通して、作業療法とは何かを考え、作業療法士の役割について理解する。その為、基礎となる哲学・概念・歴史を知り、身体・精神・高齢期などの各専門領域についても理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法を学ぶために作業療法の成り立ちや各領域における役割を講義や演習を通して理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 自分なりに作業療法のイメージを持ち、且つ、理学療法の役割について考えられる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	作業療法とは		
2	作業療法の歴史と原理		
3	作業の分析と治療への適用		
4	身体機能分野における作業療法の実際		
5	精神機能分野における作業療法の実際		
6	発達過程分野における作業療法の実際		
7	高齢期分野における作業療法の実際		
8	まとめ		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
[使用テキスト・参考文献] 配布資料		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60 点以上合格.	

授業概要			
言語療法学概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	野津 清	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8回	1(15)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 理学療法士として活躍するために、知っておかなければならない言語聴覚療法の医療的知識や医療者としての取り組み姿勢を学修する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 「障害を診ずして障害者を診よ」。社会的視野を持ち、人と向き合う理学療法士になるためには、幅広い知識が必要です。この講義では、脳卒中による言語機能障害や嚥下障害、聴覚の障害などにおける様々な知識と技術を、学生目線でわかりやすく講義致します。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 受講し習得した医術や考え方を、臨床（患者ケア）にどう活かすかをイメージできるようになる。そして、3年後の自分の姿を想像し、障害部位や機能だけを診るのではなく、それに苦しむ“人”を診る理学療法士になるために必要なことは何かを考えることができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	高次脳機能障害 ～概論～		
2	高次脳機能障害 ～失行・失認～		
3	高次脳機能障害 ～失語症①～		
4	高次脳機能障害 ～失語症②～		
5	構音障害・吃音		
6	聴覚障害 ～聴覚障害者とのコミュニケーション/手話～		
7	嚥下障害		
8	職業”理学療法士”として生きる		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
<p>【使用テキスト・参考文献】 使用テキスト：A4 ファイルをご用意ください。 参考文献：「言語聴覚療法 臨床マニュアル」</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60 点以上合格</p>	

授業概要			
多職種連携論 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	藤原 美咲	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8回	1(15)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 多職種連携とは、多職種連携教育とは何かを考えられることが目的である。患者を包括的に支援するためには他職種がどのような役割の中で業務を遂行しているのかを知る必要がある。作業療法士が作業療法士であるために他職種に歩み寄り、互いの職種を尊重できる姿勢を養う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 講義・演習・発表を行う。多職種の役割を文献を通じて調べアウトプットする機会を設ける。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 多職種連携とは何かを自らが調べ解釈することができる。 他職種と歩み寄るための姿勢・心構えを培うことができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	多職種連携とは		
2	多職種連携教育とは		
3	他職種について		
4	他職種の役割①		
5	他職種の役割②		
6	他職種の役割③		
7	他職種の役割発表①		
8	他職種の役割発表②		
[使用テキスト・参考文献] 特になし		[単位認定の方法及び基準] グループ課題 60点以上合格	

授業概要			
多職種連携論Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	藤原 美咲	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8回	1(15)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 症例検討を通じて、理学療法士にとどまらず、看護師・作業療法などの多職種との連携について理解することを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 講義・演習・事例検討を中心に行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 それぞれの専門職の役割を理解し、様々なツールを使用しながら他者に説明することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	症例検討講義		
2	症例検討演習		
3	事例検討①		
4	事例検討②		
5	事例検討③		
6	事例検討④		
7	事例検討⑤		
8	事例検討⑥		
[使用テキスト・参考文献] 特になし		[単位認定の方法及び基準] グループ課題 60点以上合格	

授業概要			
保健医療福祉概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	八木 佑介	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
8回	1(15)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 理学療法士として必要な医療制度や社会福祉に関する基礎知識を習得し、チーム医療における役割の理解を目的とする。また、障害を持つ人が自立して社会参加できるような、社会全体として行う自立支援や就労支援の仕組みを理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 まずは社会福祉・社会保障・社会保険の違いについてしっかり理解し、わが国における具体的な制度についての理解を深める。また身近な社会資源から世界の社会保障に至るまで実例を示しながら、グループワークも交えて相互理解を図る。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 人々の暮らしの中で、医療・社会福祉がどのような役割があるのかを理解し、歴史・法体系・社会保障制度の重要性を把握する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	社会福祉の歴史		
3	社会保障の概念		
4	医療保険制度について		
5	介護保険制度について		
6	社会福祉の諸制度（自立支援，就労支援について）		
7	地域包括ケアシステムについて		
8	グループワーク①		
<p>【使用テキスト・参考文献】 必要に応じてプリント資料を配布</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 試験 80点，平常点 20点（出席 5点，授業態度 5点，発表点 10点） 計 100点 60点以上合格。</p>	

授業概要			
理学療法学概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	洪澤 里香	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2(30)	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 リハビリテーション医学における理学療法の役割について総合的・体系的に教授する。 理学療法の概念・理学療法士の職域と社会的役割・チーム医療における位置づけ・理学療法の特徴について理解を深めていく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 理学療法の理念および歴史・倫理、理学療法士の職域と業務管理運営、社会的役割・教育研究および職能団体の意義についても理解を深める。 ディスカッション等の小規模グループワークを行い、援助的構造の集団活動により他者との一体感や親密さを共有する。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 医療専門職である理学療法士のイメージを身につけること、今後学習する理学療法各論への知識の統合・統合化への基礎をつくることを目標とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	理学療法学総論		
2	理学療法の歴史		
3	理学療法士の法律制度		
4	理学療法における管理		
5	理学療法部門におけるチーム医療		
6	理学療法教育		
7	理学療法研究		
8	理学療法の組織 理学療法士協会		
9	世界の理学療法		
10	理学療法の領域 職域		
11	理学療法に関連する分野		
12	理学療法の対象と治療手段		
13	臨床での理学療法①		
14	臨床での理学療法②		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法学 理学療法学概説		[単位認定の方法及び基準] 課題・レポート 40点 試験 50点, 平常点 10点 (出席 5点, 授業態度 5点) 計 100点 60点以上合格	

授業概要			
基礎理学療法学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	渋澤 里香	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 第3者に動作が伝えられるように動作の記述，動作における各部の動きと正常動作のパターンの把握，異常動作の特徴の把握ができる．また異常動作の原因を推察できるようにする．</p> <p>【授業全体の内容の概要】 テキストと参考文献に添って講義・演習をおこなう</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ①動作の記述が出来る．②動作における各部の動きが言える．③正常動作のパターンが把握できる．④異常動作の特徴を把握できる．</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション 序論・バイオメカニクス		
2	基本動作の姿勢制御		
3	寝返り動作1 講義	パターン・各部位・評価	
4	寝返り動作2 演習	分析	
5	起き上がり動作1 講義	パターン・各部位・評価	
6	起き上がり動作2 演習	分析	
7	起立（立ち上がり動作）1 講義	パターン・各部位・評価	
8	起立（立ち上がり動作）2 演習	分析	
9	正常歩行1		
10	正常歩行2		
11	正常歩行3		
12	異常歩行1		
13	異常歩行2		
14	異常歩行3		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 教科書 動作分析 臨床活用講座 標準理学療法 病態運動学 参考文献 臨床歩行分析ワークブック</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 試験 80点， 平常点 20点 （出席5点，授業態度5点，課題5点，小テスト5点） 計100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
理学療法研究法	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	石田 和人	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2(30)	2年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 理学療法士における研究法について学習する</p> <p>[授業全体の内容の概要] 理学療法における研究の重要性を認識する</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 理学療法士における研究について理解することができる</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	理学療法研究への入り口 (なぜ研究するのか?)		
2	研究計画・研究の種類・シングルケースデザイン		
3	文献検索法演習 (I) 情報リテラシー入門と和文献の検索		
4	論文講読演習および発表		
5	臨床研究と生体計測論		
6	基礎医学的研究方法論		
7	社会調査 (調査法・質問調査法・尺度の妥当性)		
8	研究と倫理と EBM		
9	文献検索法演習 (II) 国際誌の検索		
10	学会発表と論文作成について		
11	実践統計学		
12	模擬研究演習 (I) 生体計測 (データ収集)		
13	模擬研究演習 (II) データ解析とまとめ		
14	理学療法研究から留学への道		
15	まとめ・総合討論		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
指定なし 必要に応じてプリントした資料を配布する		出席状況、演習レポートの提出を基本として、試験により評価する。60点以上合格。	

授業概要			
理学療法管理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	星野 茂	有
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
15回	2(30)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 高齡化の進展に伴って医療ニーズが変化し、これまでも保健・医療・福祉の一体的な改革が進められてきた。リハビリテーションの対象者には病気と共存しながら在宅生活の質の維持向上を図る必要性に直面し、切れ目のない効率的なサービス提供のための「連携」が重要視されている。 リハビリテーションを担う者として、院外・施設外に視野を広げ地域全体のリハビリテーションに携わる機会が増加する中において、その拠点となる組織の強化につき、具体的な管理・教育について系統的・具体的に教授する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 医療保険制度・介護保険制度を理解し、職場管理、理学療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 保健医療福祉制度の理解、組織運営に関するマネジメント能力を養い、理学療法倫理および理学療法教育についての理解が深まる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション、総論		
2	医療法		
3	チーム医療と専門職		
4	社会保障制度		
5	医療保険		
6	介護保険		
7	診療報酬・介護報酬		
8	予防		
9	業務管理		
10	多職種連携・地域連携		
11	リスク管理・感染症対策		
12	権利・倫理、教育管理		
13	まとめ		
14	復習		
15	試験解説		
<p>【使用テキスト・参考文献】 ・リハビリテーション管理学 医学書院 ・資料配布 参考文献 ・理学療法管理学 医歯薬出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 試験 80 点，平常点 20 点（授業態度 10 点，課題 10 点） 計 100 点 60 点以上合格</p>	

授業概要			
臨床評価学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	柳 忠	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	2 年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 理学療法を実施するための画像情報の読み取り方から理学療法への結び付けについて理解する。 臨床上必要となる姿勢・動作観察から必要な情報を収集できる能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 画像情報を読み取る解剖学的知識を確認し、画像情報を読み取る。 実際の人物や動画を利用した姿勢・動作の観察から分析を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 画像情報から、疾患情報や障害像を予測できるようになる。 実際の患者の画像や動画から各姿勢・動作がどのように正常から逸脱しているかをまとめることができる</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	画像情報とは (X線、CT)		
2	画像情報とは (MRI)		
3	頸椎の正常画像と代表的疾患の画像		
4	胸腰椎の正常画像と代表的疾患の画像		
5	上肢の正常画像と代表的疾患の画像		
6	下肢の正常画像と代表的疾患の画像		
7	整形外科疾患の画像の読み取り		
8	頭部の正常画像、脳卒中の画像		
9	その他中枢疾患の画像、呼吸器疾患の画像		
10	姿勢観察 (臥位・座位)		
11	姿勢観察 (立位)		
12	動作観察 (立ち上がり)		
13	動作観察 (歩行) (1)		
14	動作観察 (歩行) (2)		
15	画像情報・動作観察からの理学療法		
<p>[使用テキスト・参考文献] <参考文献> ・医学書院 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価 ・医学書院 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 脳画像</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 単位認定は、定期試験 80%、レポート課題 20%の配分で 60 点以上を合格とする。レポート課題については基準点未満の場合再提出とする。</p>	

授業概要			
理学療法評価学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	尾関 直洋	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	1年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 理学療法の位置づけを理解し、意義・目的を学習し、実際の評価技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 理学療法評価の総論と一部各論について講義・実習を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 評価とは何かを理解し、情報収集の方法や一部測定を行うことができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	講義：理学療法評価総論		
2	講義：理学療法評価各論：情報収集		
3	実習：理学療法評価各論：形態測定		
4	実習：理学療法評価各論：形態測定		
5	実習：理学療法評価各論：形態測定		
6	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定 (上肢)		
7	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定 (上肢)		
8	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定 (上肢)		
9	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定 (上肢)		
10	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定 (下肢)		
11	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定 (下肢)		
12	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定 (下肢)		
13	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定 (手指)		
14	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定 (体幹)		
15	振り返り・まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 理学療法評価学 実習を行える服装で臨むこと。(Tシャツ, ハーフパンツ)		[単位認定の方法及び基準] 試験 80点, 平常点 20点 (出席 10点, 課題・小テスト 10点) 計 100点 60点以上合格	

授業概要			
理学療法評価学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	藤原 美咲	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	2 年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 理学療法の効果的な介入を実践するために、理学療法評価を理解し実際の技術を学ぶ</p> <p>【授業全体の内容の概要】 評価方法（中枢神経疾患）の意義・目的を理解し実践する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 各評価方法の意義・目的を理解し実践できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	バイタルサイン		
2	感覚検査		
3	筋緊張検査		
4	腱反射、皮膚反射、病的反射 1		
5	腱反射、皮膚反射、病的反射 2		
6	片麻痺機能検査 1		
7	片麻痺機能検査 2		
8	片麻痺機能検査 3		
9	運動失調検査		
10	脳神経検査		
11	脳神経支配の筋の検査、体幹機能評価		
12	高次脳機能検査		
13	脳血管疾患患者評価の流れ 1（画像情報の理解を含む）		
14	脳血管疾患患者評価の流れ 2（画像情報の理解を含む）		
15	解説・まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 理学療法評価学 その他、必要に応じて資料配布</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 出席状況 5 点 小テスト 25 点 期末試験 70 点 合計 100 点 60 点以上合格</p>	

授業概要			
理学療法評価学Ⅲ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		実習	岡本 美幸
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	2 年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 理学療法で取り扱う疾患の中で中枢神経疾患とともに多いのが整形外科疾患である。理学療法で簡単に検査できる方法として、徒手的な検査があり、その代表的なものを説明する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 各種疾患の検査法、障害および各検査手順を説明する。各検査法が実際にできるよう反復練習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 各種疾患の検査法、障害について理解する。各検査手順を理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション、整形外科検査の意義目的について		
2	上肢疾患検査 (肩関節①)		
3	上肢疾患検査 (肩関節②)		
4	上肢疾患検査 (肘関節)		
5	上肢疾患検査 (手関節, 指関節①)		
6	上肢疾患検査 (手関節, 指関節②)		
7	下肢疾患検査 (股関節①)		
8	下肢疾患検査 (股関節②)		
9	下肢疾患検査 (膝関節①)		
10	下肢疾患検査 (膝関節②)		
11	下肢疾患検査 (足関節①)		
12	下肢疾患検査 (足関節②)		
13	頸部・腰部疾患検査①		
14	頸部・腰部疾患検査②		
15	振り返り・まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準整形外科学 標準理学療法学 理学療法評価学 標準理学療法学 骨関節理学療法学 実習はジャージ等、実技が行える服装で臨むこと。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 試験 90 点, 平常点 10 点 (出席 5 点, 授業態度 5 点) 計 100 点 60 点以上合格</p>	

授業概要			
理学療法評価学演習 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		演習	岡本 美幸・田端 吉彦
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	2 年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 理学療法評価のひとつ徒手筋力検査法について、意義・目的と実技を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 各関節の運動の筋力検査を学生同士で実践しながら学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 肩甲骨、上肢および体幹の徒手筋力検査法を実施することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション, 徒手筋力検査法の目的		
2	徒手筋力検査法(上肢)		
3	徒手筋力検査法(上肢)		
4	徒手筋力検査法(上肢)		
5	徒手筋力検査法(上肢)		
6	徒手筋力検査法(上肢)		
7	徒手筋力検査法(上肢)		
8	徒手筋力検査法(上肢)		
9	徒手筋力検査法(上肢)		
10	徒手筋力検査法(体幹)		
11	徒手筋力検査法(体幹)		
12	徒手筋力検査法(体幹)		
13	徒手筋力検査法(体幹)		
14	徒手筋力検査法(上肢・体幹の復習)		
15	徒手筋力検査法(上肢・体幹の復習)		
[使用テキスト・参考文献] 新・徒手筋力検査法 第10版 協同医書出版社 実習を行える服装で臨むこと。(Tシャツ, ハーフパンツ)		[単位認定の方法及び基準] 実技試験 80点, 平常点 20点 計 100点 60点以上合格	

授業概要			
理学療法評価学演習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	演習	岡本 美幸・田端 吉彦	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 理学療法評価のひとつ徒手筋力検査法について、意義・目的と実技を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 各評価を学生同士で実践しながら学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 手指足趾および下肢の徒手筋力検査法を実施することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	徒手筋力検査法(下肢)		
2	徒手筋力検査法(下肢)		
3	徒手筋力検査法(下肢)		
4	徒手筋力検査法(下肢)		
5	徒手筋力検査法(下肢)		
6	徒手筋力検査法(下肢)		
7	徒手筋力検査法(下肢)		
8	徒手筋力検査法(下肢)		
9	徒手筋力検査法(下肢)		
10	徒手筋力検査法(手指足趾)		
11	徒手筋力検査法(手指足趾)		
12	徒手筋力検査法(手指足趾)		
13	徒手筋力検査法(手指足趾)		
14	徒手筋力検査法(下肢・手指足趾の復習)		
15	徒手筋力検査法(下肢・手指足趾の復習)		
<p>【使用テキスト・参考文献】 新・徒手筋力検査法 原著 理学療法評価学 PT・OTのための臨床技能とOSCE 実習が行える服装(短パン, Tシャツなど)を準備すること。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 実技試験で6割以上を合格とする</p>	

授業概要			
理学療法評価学演習Ⅲ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		演習	田端 吉彦・渋澤 里香・岡本 美幸 八木 佑介・尾関 直洋・藤原 美咲
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	2 年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 臨床実習に向けての客観的臨床能力試験 (OSCE) の実技を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 各評価を学生同士で実践しながら学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 実習に向けて、模擬患者に対して各評価を実施できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	OSCE 講義(脈拍と血圧の測定)		
2	OSCE 講義(呼吸パターンと動脈血酸素飽和度の評価)		
3	OSCE 講義(整形外科疾患別検査)		
4	OSCE 講義(筋の触察)		
5	OSCE 講義(感覚検査)		
6	OSCE 講義(反射検査)		
7	OSCE 講義(脳神経検査)		
8	OSCE 講義(脳卒中中の麻痺側運動機能の評価)		
9	OSCE 講義(運動失調検査)		
10	OSCE 講義(立位バランスの評価)		
11	OSCE 講義(下肢装具・歩行補助具の調整)		
12	OSCE 実技①		
13	OSCE 実技②		
14	OSCE 実技③		
15	OSCE 実技④		
<p>【使用テキスト・参考文献】 新・徒手筋力検査法 原著 理学療法評価学 PT・OT のための臨床技能と OSCE 実習が行える服装(短パン, T シャツなど)を準備すること。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 実技試験で 6 割以上を合格とする</p>	

授業概要			
運動療法学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	藤原 美咲	有
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 運動療法学は理学療法のもっとも大きな柱として位置づけられている。 また、治療医学・リハビリテーション医学においても不可欠な領域として存在している。在宅における理学療法にあっても運動療法の背景となる基礎知識と技術は当然求められる。 また、経験則ではなく世界で求められている EBM・EBP を正しく理解し実施するという基本的課題についても真摯に取り組む必要がある。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 理学療法の礎となるべく、運動療法の基礎の理解を、経験則ではなく世界で求められている EBM・EBP を正しく理解し実施する。小テストや復習テストを採り入れていく。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 運動療法各論を行う前提として知っておかなければならない基本・基礎分野を正確に理解し説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	運動療法学総論・全身調整運動		
2	関節可動域運動①		
3	関節可動域運動②		
4	ポジショニング・ストレッチング		
5	筋力増強運動①		
6	筋力増強運動②		
7	筋力増強運動③		
8	筋持久力		
9	全身持久力		
10	感覚・知覚・神経筋再教育		
11	協調運動		
12	各種運動療法①（基本動作、歩行）		
13	各種運動療法②（バランス、運動学習）		
14	総復習		
15	解説		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学 運動療法学 総論</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 出席点 5 点 小テスト・課題 25 点 定期試験 70 点 合計 100 点 60 点以上合格</p>	

授業概要			
中枢理学療法治療学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	藤原 美咲	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 中枢神経系の復習とともに脳血管疾患により引き起こされる障害を理解する。脳血管疾患患者の状態の理解及び治療法について学ぶ</p> <p>[授業全体の内容の概要] 本講義では、脳血管疾患の理学療法について解剖などの基礎知識から一般的な治療までを学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 脳血管疾患の理学療法の一般的な評価から治療を計画できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション、中枢神経系の解剖①		
2	中枢神経系の解剖② (画像情報の理解含む)		
3	脳損傷の定義と病態		
4	脳の損傷と回復		
5	随意運動のしくみ		
6	各病期でのリハビリテーション①		
7	各病期でのリハビリテーション②		
8	片麻痺の肩の管理 (スリング含む)		
9	脳卒中の基本動作		
10	脳卒中片麻痺の歩行		
11	脳卒中片麻痺の装具		
12	pusher 現象、wallenberg 症候群、運動失調		
13	高次脳機能障害と評価①		
14	高次脳機能障害と評価②		
15	解説・まとめ		
<p>[使用テキスト・参考文献] 脳卒中 基礎知識から最新リハビリテーションまで ベッドサイドの神経の診かた その他、必要に応じて資料を配布</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 出席状況 5 点 課題・小テスト 25 点 定期試験 70 点 合計 100 点 60 点以上合格</p>	

授業概要			
中枢理学療法治療学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	藤原 美咲	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 リハビリテーションとは機能回復の病態生理学的原理解を深め、発展させ、洗練しようとする1つの過程であり、それ自体は疾患ではなく固有の疾患も存在しない。神経学的リハビリテーションとは神経疾患の原則をこの過程に応用して機能を再建することにある。 原疾患の経過と本質とを理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 原疾患の理解を踏まえ、人間の活動や行動にきわめて重要な役割を果たす運動療法の思考過程や技術の理解を深める。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 理想的な治療指標と適用手段を選定した運動療法の選定と、種々の治療的要素の統合ができることを目標とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	パーキンソン病 総論		
2	パーキンソン病 評価		
3	パーキンソン病 理学療法		
4	筋委縮性側索硬化症		
5	多発性硬化症		
6	脊髄損傷 病態		
7	脊髄損傷 リスク管理		
8	脊髄損傷 評価		
9	脊髄損傷 理学療法①		
10	多発性筋炎・皮膚筋炎・重症筋無力症		
11	脊髄小脳変性症 病態		
12	脊髄小脳変性症 評価		
13	脊髄小脳変性症 理学療法		
14	ニューロパチー (ギランバレーなど)		
15	解説・まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 神経理学療法学 その他、必要に応じて資料配布</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 出席点 5点 小テスト 25点 定期試験 70点 計 100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
運動器理学療法治療学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・実習	岡本 美幸	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 運動器障害に対する理学療法を行う上で必要な疾患・病態を学び、理学療法の基本的手技を習得する</p> <p>【授業全体の内容の概要】 運動器障害の説明、その障害に対する評価と治療方法を実習を交えながら行っていく</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 運動器障害の理解とその障害に対する評価と治療方法について考えることができる</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	組織再生・修復		
2	関節リウマチ①		
3	関節リウマチ②		
4	末梢神経損傷①		
5	末梢神経損傷②		
6	頸部疾患①		
7	頸部疾患②		
8	腰部疾患①		
9	腰部疾患②		
10	脊椎の手術①		
11	脊椎の手術②		
12	側彎症		
13	骨端症		
14	熱傷		
15	振り返り・まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準整形外科学 標準理学療法学作業療法学 整形外科学 標準理学療法学 骨関節理学療法学 実習はジャージ等、実技が行える服装で臨むこと</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 試験 90点, 平常点 10点, 計 100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
運動器理学療法治療学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	八木 佑介	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	2 年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 整形外科疾患の病態を理解し，理学療法士としての基本的な治療技術を学習することを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 各疾患の病態を説明し，必要な評価や治療法を実技を交えて講義をする。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 各疾患の病態を理解し，適切な評価と治療が選択できることを目標とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	骨折について①		
3	骨折について②		
4	脱臼について		
5	肩関節周囲炎①		
6	肩関節周囲炎②		
7	肩関節の外傷		
8	変形性股関節症①		
9	変形性股関節症②		
10	変形性膝関節症①		
11	変形性膝関節症②		
12	膝関節靭帯・半月板損傷、肉ばなれ		
13	運動器系治療実技①		
14	運動器系治療実技②		
15	まとめ 総復習		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準整形外科学 実技練習の際は，Tシャツ，ハーフパンツに着替えること</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 試験 80 点，平常点 20 点（出席 10 点，授業態度 10 点） 計 100 点 60 点以上合格</p>	

授業概要			
内部障害理学療法治療学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	尾関 直洋	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	1 年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>本授業では、循環器疾患を中心とした内部障害に対する理学療法の基本的な知識と臨床的アプローチを学びます。解剖学・生理学的基礎、病態理解、評価法、心電図や画像診断、運動負荷試験、心臓リハビリテーションの流れを体系的に理解し、理学療法士としての臨床判断力の基盤を育むことを目的とします。また、現場で求められるフィジカルアセスメント能力と安全な運動療法の導入判断ができる視点を身につけることをねらいとします。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>本授業では、循環器疾患を中心とした内部障害に対する理学療法の基礎を学びます。心電図や運動負荷試験、画像評価などの検査法を理解し、代表的な疾患の病態とリハビリテーションの考え方を実践的に身につけます。急性期から回復期までの評価と介入を総合的に学ぶことで、臨床での対応力を高めます。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】</p> <p>循環器疾患の基礎知識と代表的な病態を理解し、心電図や運動負荷試験などの評価法を正しく使えるようになることを目指します。また、急性期から回復期における理学療法の基本的な考え方を身につけ、対象者の状態に応じた安全で効果的な介入ができる力を養います。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	内部障害とは・循環器の解剖・生理学		
2	心電図の基本		
3	心電図測定 演習		
4	不整脈について		
5	運動負荷試験の基本		
6	心肺運動負荷試験 (CPX) 演習		
7	循環器疾患の画像評価		
8	虚血性心疾患について		
9	心不全について①		
10	心不全について②		
11	末梢動脈疾患について		
12	大血管疾患について		
13	フィジカルアセスメントと循環器疾患の身体機能・構造・活動と参加の評価		
14	急性期・回復期の理学療法・包括的な心臓リハビリテーション		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準理学療法学 専門分野 内部障害理学療法学		定期試験 60%以上合格	

授業概要			
内部障害理学療法治療学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	尾関 直洋	有
授業の回数	単位数(時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年 後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>本授業では、呼吸器・代謝・腎疾患およびがんといった多様な内部障害に対する理学療法の基礎知識と臨床での対応方法を学びます。呼吸機能評価や演習を通じて、実践的な評価技術を習得するとともに、各疾患に応じた適切なリハビリテーションの考え方を身につけることを目的とします。また、対象者の状態や病期、合併症の有無に応じた安全な理学療法の提供を考える力を育み、チーム医療の中で理学療法士としての役割を果たせる基盤を形成することをねらいとします。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>本授業では、呼吸器・代謝・腎疾患・がんなどの内部障害に対する理学療法を学びます。呼吸機能評価や演習を通じて、呼吸リハビリの基本を身につけるとともに、各疾患の病態やリスク、理学療法の実際を理解します。幅広い疾患に対応するための基礎的な評価・介入技術を習得し、臨床現場での応用力を高めます。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>呼吸・代謝・腎疾患およびがんに関連する内部障害の特徴を理解し、各疾患に対する理学療法の基本的評価と介入が説明・実践できるようになることを目指します。対象者の状態や病期に応じたリハビリテーションを安全かつ効果的に実施できる基礎力を養います。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	呼吸器の解剖・生理		
2	呼吸機能障害の評価		
3	呼吸機能評価 演習		
4	呼吸理学療法と運動療法		
5	慢性閉塞性肺疾患（COPD）		
6	間質性肺疾患		
7	高齢者肺炎・呼吸器合併症		
8	胸腹部外科周術期・急性呼吸不全・呼吸管理		
9	代謝障害について		
10	糖尿病について		
11	腎障害について①		
12	腎障害について②		
13	がんリハビリテーションについて①		
14	がんリハビリテーションについて②		
15	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学 専門分野 内部障害理学療法学		【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60%以上合格	

授業概要			
小児理学療法治療学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	樋田 史	無
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 小児理学療法に関する基礎的な内容を理解する</p> <p>【授業全体の内容の概要】 子どもの正常発達を理解し、それに基づき障害児との違いを考え障害児の評価、プログラムの立案、評価のポイントを学ぶ</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 正常運動発達について理解している 代表的な疾患について理解している</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	小児リハの総論		
2	正常発達		
3	正常発達		
4	原始反射		
5	原始反射		
6	原始反射		
7	脳性麻痺の総論 脳性麻痺の特徴		
8	脳性麻痺の特徴		
9	脳性麻痺の特徴		
10	脳性麻痺の特徴・評価		
11	脳性麻痺の評価と治療		
12	神経筋疾患の総論（筋ジストロフィーを中心に）		
13	神経筋疾患に対する理学療法		
14	その他の小児疾患総論		
15	小児理学療法法の振り返り・定期試験解説		
【使用テキスト・参考文献】 小児理学療法学テキスト／南江堂		【単位認定の方法及び基準】 試験により評価する。60点以上合格。	

授業概要			
スポーツ理学療法治療学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義		無
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 我が国におけるスポーツ活動は多様化し、様々な目的をもってスポーツに取り組む人々が増加している。スポーツ医療に伴い、理学療法士が活動をする場所と機会も増してきており、社会的な期待も大きくなっている。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 スポーツ選手や愛好家に対する「スポーツ理学療法」の概略を紹介する</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 上肢・下肢の代表的なスポーツ外傷（急性外傷、慢性外傷）への理学療法について実技も含めて習得する</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	スポーツ理学療法学概論①		
2	スポーツ理学療法学概論②		
3	膝関節のスポーツ外傷1－急性外傷①		
4	膝関節のスポーツ外傷1－急性外傷②		
5	下肢のスポーツ外傷（慢性外傷）①		
6	下肢のスポーツ外傷（慢性外傷）②		
7	足関節・足部のスポーツ外傷①		
8	足関節・足部のスポーツ外傷②		
9	頸部・腰部のスポーツ外傷①		
10	頸部・腰部のスポーツ外傷②		
11	肩のスポーツ外傷①		
12	肩のスポーツ外傷②		
13	肘～手のスポーツ外傷①		
14	肘～手のスポーツ外傷②		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 アスリートのリハビリテーションとリコンディショニング（上・下巻）</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 出席状況，レポートによる総合判定．60点以上合格．</p>	

授業概要			
理学療法治療学演習 I (ROM)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	八木 佑介	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 理学療法の治療に必要な関節可動域運動を、解剖学・運動学的観点から理解し、実施できることを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 各関節の構造を理解し、正しい運動方向を理解しながら、実技を中心に行っていく。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 各関節の可動域運動を実施できることを目標とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	関節可動域運動 上肢① (肩関節)		
3	関節可動域運動 上肢② (肩甲帯)		
4	関節可動域運動 上肢③ (肘・手関節)		
5	関節可動域運動 上肢④ (指関節)		
6	関節可動域運動 下肢① (股関節)		
7	関節可動域運動② 下肢 (膝関節)		
8	関節可動域運動 下肢③ (足関節)		
9	関節可動域運動 体幹① (頸部)		
10	関節可動域運動 体幹② (腰部)		
11	疾患別関節可動域運動 整形外科疾患		
12	疾患別関節可動域運動 中枢疾患		
13	疾患別関節可動域運動 その他疾患		
14	関節可動域運動 禁忌事項について		
15	まとめ 総復習		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学 理学療法評価学 第3版 医学書院 実技練習の際は、Tシャツ、ハーフパンツに着替えること</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 出席 50 点、小テスト 50 点 計 100 点 60 点以上合格</p>	

授業概要			
理学療法治療学演習Ⅱ (ストレッチ)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	岡本 美幸	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 ストレッチは理学療法治療手技のひとつである。ストレッチの目的・対象となる組織を理解した上で、実技を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 対象となる組織を確認し、その対象に応じたストレッチ方法を学び、学生同士で実際にストレッチを行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 治療の対象となる組織をイメージし、適切なストレッチング方法を導き出し、実施することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	ストレッチとは		
2	頸・体幹1		
3	頸・体幹2		
4	頸・体幹3		
5	上肢1		
6	上肢2		
7	上肢3		
8	上肢4		
9	上肢5		
10	下肢1		
11	下肢2		
12	下肢3		
13	下肢4		
14	下肢5		
15	下肢6		
<p>【使用テキスト・参考文献】 使用せず 実習が行える服装 (短パン, Tシャツなど) を準備すること。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 授業態度および課題にて判断する。 60点以上合格。</p>	

授業概要			
理学療法治療学演習Ⅲ (トレーニング)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	岡本 美幸・八木 佑介 尾関 直洋・藤原 美咲	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年 後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会（JATI : Japan Association of Training Instructors）が認定する JATI 認定トレーニング指導者の資格取得を目指す。トレーニング指導者が科学的根拠に基づいて活動するための必須の技術を獲得することを目指す。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 JATI 認定トレーニング指導者は「対象や目的に応じた科学的根拠に基づく適切な身体運動のプログラムを作成、これを効果的に指導・運営するための知識と技能を有する専門家」と定義される。トレーニング指導者における必要な技術を高めるための内容を講義する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するための技術を獲得する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	トレーニング効果の測定と評価		
2	測定データの分析とデータの活用法		
3	長期的トレーニング計画		
4	レジスタンストレーニング		
5	パワートレーニング		
6	持久力トレーニング		
7	スピードトレーニング		
8	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウン、リカバリー		
9	特別な対象のためのトレーニングとプログラム		
10	生活習慣病、傷害の受傷から復帰までの トレーニングプログラム		
11	レジスタンストレーニングの実技と指導法（実技）		
12	パワートレーニングの実技と指導法（実技）		
13	持久力トレーニングの実技と指導法（実技）		
14	スピードトレーニングの実技と指導法（実技）		
15	ウォームアップと柔軟性トレーニング、その他のトレーニング実技と指導法（実技）		
【使用テキスト・参考文献】 トレーニング指導者テキスト〔実践編〕3訂版		【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60%以上合格	

授業概要			
理学療法治療学演習Ⅳ (症例検討)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		演習	岡本 美幸・八木 佑介 尾関 直洋・藤原 美咲
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	2 年 後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>症例検討を通して、多様な障害に対する理学療法の臨床的判断力と問題解決能力を養います。運動器、内部障害、脳血管障害の実際の症例を分析し、統合的に評価・解釈して、最適なリハビリテーション計画を立案できる力を身につけることを目的とします。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>オリエンテーションで症例検討の進め方を学び、運動器・内部障害・脳血管障害の各領域の症例を通して評価、解釈、治療計画の立案をグループで行います。症例の統合的理解と臨床推論力の向上を目指します。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】</p> <p>本授業で、多様な症例情報を的確に統合し、対象者の問題点を明確に抽出できる能力を身につけます。また、評価結果をもとに合理的な臨床推論を行い、個々の患者に最適な理学療法計画を立案・説明できる力を養います。さらに、グループ討議を通じて他者の意見を尊重し協働するコミュニケーション能力も高め、チーム医療に貢献できる態度を習得します。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	症例検討 オリエンテーション		
2	統合と解釈とは		
3	運動器症例①		
4	運動器症例②		
5	運動器症例③		
6	運動器症例④		
7	内部障害症例①		
8	内部障害症例②		
9	内部障害症例③		
10	内部障害症例④		
11	脳血管障害症例①		
12	脳血管障害症例②		
13	脳血管障害症例③		
14	脳血管障害症例④		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>標準理学療法学 専門分野 臨床実習とケーススタディ</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>レポート課題 60 点以上合格</p>	

授業概要			
義肢装具学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	内橋 礼樹	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 理学療法の中で必要とされる、装具についての知識について理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 テキストに沿った装具学全般の講義（パワーポイントにて）、及び臨床現場における理学療法士にとって重要と思われるチェックポイントについて解説を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 装具の名称、機能についての理解を得る。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	装具学 テキスト (P1～15) 装具学総論		
2	装具学 テキスト (P17～47) 足底装具		
3	装具学 テキスト (P17～47) 靴型装具		
4	装具学 テキスト (P62～84) 短下肢装具		
5	装具学 テキスト (P90～96) 膝装具		
6	装具学 テキスト (P84～89、96～105) 長下肢装具、股装具、免荷装具 他		
7	装具学 テキスト (P105～113) 小児用装具 他		
8	装具学 下肢装具まとめ、試験問題		
9	装具学 テキスト (P117～146) 体幹装具①		
10	装具学 テキスト (P117～146) 体幹装具②		
11	装具学 テキスト (P149～198) 上肢装具①		
12	装具学 テキスト (P149～198) 上肢装具②		
13	装具学 体幹装具、上肢装具まとめ、試験問題		
14	装具学 まとめ 及び 試験対策		
15	試験解説		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「義肢装具学」 医学書院 「装具学 第4版」 医歯薬出版（株） 1.パワーポイント使用環境設備 2.各回テーマに沿った装具（学内備品を準備・使用） 3.資料配布（パワーポイント）</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60点以上で合格</p>	

授業概要			
義肢装具学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	岩田 純朋	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 義肢の種類・構造・機能・使用目的・適応を理解し処方・適合判定ができるようになる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 義足・義手の現物を見ながら知識を深める。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 義肢の種類・構造を理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	義肢学総論		
2	義肢の分類		
3	足部について		
4	下腿義足		
5	下腿義足：アライメント		
6	大腿義足		
7	大腿義足：アライメント、膝継手		
8	異常歩行について		
9	義足リハビリについて		
10	その他義足		
11	義手について		
12	テスト解説		
13	採型実習		
14	適合実習		
15	試験解説		
[使用テキスト・参考文献] 「装具学」 「義肢学」		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60 点以上合格	

授業概要			
物理療法学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	岡本 美幸	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 近年我が国に於ける理学療法は、臨床・研究さらには教育の分野においても運動療法に主眼がおかれている状況にある。理学療法における物理療法の位置づけを学び、解剖学・物理学・生理学・病理学・障害学・医療社会学などの科学的知見に立脚したバランスのとれた理学療法士の育成に努める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 各種物理療法を臨床でどのように適用し、どのように活かしていくかを、その有効性とリスク管理の面から最適なインターベンションを図るすべを理解する必要がある。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 理想的な治療指標と適用手段を選定し、治療プログラムへ組み込むことによって、リハビリテーション治療計画に適切な物理療法と種々の治療的要素の統合ができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	物理療法総論・リスク管理		
2	温熱療法概略		
3	ホットパック・パラフィン浴		
4	極超短波・超短波療法		
5	超音波療法		
6	水治療法		
7	電気刺激療法①		
8	電気刺激療法②		
9	牽引療法		
10	超音波療法		
11	光線療法・寒冷療法		
12	グループワーク①		
13	グループワーク②		
14	グループワーク③		
15	解説・まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学 物理療法学 第5版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 試験 90点, 平常点 10点 (授業態度・出席状況 10点) 計 100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
日常生活活動学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	尾関 直洋	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] ADLの概念や範囲, また国際障害分類, 国際生活機能分類との関連性について学習し, 理学療法におけるADLの位置づけについて理解を深める.</p> <p>[授業全体の内容の概要] ADLの概念や範囲, 評価法について説明する. また疾患別のADLについての理解を深めていく.</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ADLの範囲と評価について理解する. 各疾患に対するADLを理解する.</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	講義: ADLの概念と範囲		
2	講義: ADLとQOL		
3	講義: ADL評価法I		
4	講義: ADL評価法II (Barthel Index)		
5	講義: ADL評価法III (FIM)		
6	講義: 疾患別ADLI (関節リウマチ)		
7	講義: 疾患別ADLII (下肢切断)		
8	講義: 疾患別ADLIII (脊髄損傷)		
9	講義: 疾患別ADLIV (片麻痺)		
10	講義: 疾患別ADLV (筋ジストロフィー)		
11	講義: 疾患別ADLVI (人工骨頭全置換術)		
12	講義: 疾患別ADLVII (パーキンソン病)		
13	講義: 疾患別ADLVIII (心疾患)		
14	講義: 疾患別ADLIX (呼吸器疾患)		
15	振り返り・まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学		[単位認定の方法及び基準] 試験 90点, 平常点10点 (出席点・授業態度) 計100点 60点以上合格	

授業概要			
日常生活活動学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	尾関 直洋	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	1(30)	2年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 日常生活活動の概念などの基礎知識と日常生活活動評価方法、各疾患に対する日常生活活動練習の実施方法を習得する。 【授業全体の内容の概要】 食事・入浴・更衣・排泄・整容・起居移動動作の分析および練習方法・介助方法について実習を行う。 【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 疾患別に必要となる日常生活活動の選択と適切な練習方法ならびに介助方法が習得できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	歩行補助具 I		
2	歩行補助具 II		
3	歩行補助具 III		
4	歩行補助具 IV		
5	片麻痺の ADL I		
6	片麻痺の ADL II		
7	脊髄損傷の ADL I		
8	脊髄損傷の ADL II		
9	心疾患の ADL I		
10	心疾患の ADL II		
11	呼吸器疾患の ADL I		
12	呼吸器疾患の ADL II		
13	吸痰演習 I		
14	吸痰演習 II		
15	解説・まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学		[単位認定の方法及び基準] 試験 90点, 平常点 10点 (授業態度・感想文) 計 100点 60点以上合格	

授業概要			
理学療法学演習 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		演習	田端 吉彦・八木 佑介・岡本 美幸 洪澤 里香・尾関 直洋・藤原 美咲
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
30 回	2(60)	3 年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 臨床実習で学んだ理学療法治療技術について学習する.</p> <p>[授業全体の内容の概要] 理学療法治療技術について学習する.</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 理学療法士に必要な治療技術について理解し、卒業論文としてまとめることができる</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1～ 5	臨床で経験した理学療法評価技術のまとめ		
6～ 10	臨床で経験した理学療法評価技術理論のまとめ		
11 ～ 15	臨床で経験した治療技術のまとめ		
16 ～ 20	臨床で経験した治療技術理論のまとめ		
21 ～ 30	各症例に関する臨床的推論についての討議		
[使用テキスト・参考文献] 使用テキストはなし		[単位認定の方法及び基準] 授業参加態度により評価する. 出席 50 点 授業態度 50 点 60 点以上を合格とする	

授業概要			
理学療法学演習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		演習	田端 吉彦・八木 佑介・岡本 美幸 洪澤 里香・尾関 直洋・藤原 美咲
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	2(60)	3年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 臨床実習で学んだ理学療法治療技術について学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 理学療法治療技術について学習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 理学療法士に必要な治療技術について理解し、卒業論文としてまとめることができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1～ 15	テーマ決定、文献による学習・まとめ、卒業論文作成		
16 ～ 20	テーマについてグループ討議		
21 ～ 26	パワーポイントなど発表準備、抄録作成		
27 ～ 30	卒業論文発表		
[使用テキスト・参考文献] 使用テキストはなし		[単位認定の方法及び基準] 卒業論文の抄録と原稿の提出。 卒業論文発表時の評定 60%以上を合格とする	

授業概要			
臨床理学療法 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		講義	田端 吉彦・八木 佑介・岡本 美幸 洪澤 里香・尾関 直洋・藤原 美咲
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
30 回	2(60)	3 年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 国家試験の合格を目標に, 学習スタイルの見直し, 基礎三科目(解剖学, 運動学, 生理学), 専門分野等, しっかり知識を身につける.</p> <p>[授業全体の内容の概要] グループワークにてスケジュールに沿い実施</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 国家試験の合格レベルに達する</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1～ 15	理学療法に関する解剖学的思考		
16 ～ 30	理学療法に関する運動学的思考		
<p>[使用テキスト・参考文献] 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 2024 専門基礎分野 基礎医学 理学療法士 国家試験問題解説 2024 共通問題</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 試験(国家試験レベル)6割以上合格</p>	

授業概要			
臨床理学療法Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		講義	田端 吉彦・八木 佑介・岡本 美幸 洪澤 里香・尾関 直洋・藤原 美咲
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
30 回	2(60)	3 年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 国家試験の合格を目標に, 学習スタイルの見直し, 基礎三科目(解剖学, 運動学, 生理学), 専門分野等, しっかり知識を身につける.</p> <p>[授業全体の内容の概要] グループワークにてスケジュールに沿い実施</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 国家試験の合格レベルに達する</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1～ 15	理学療法に関する生理学的思考		
16 ～ 30	理学療法に関する総合的理解及び推論		
<p>[使用テキスト・参考文献] 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 2024 基礎 PT 学 理学療法士 国家試験問題解説 2024 専門問題</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 試験(国家試験レベル)6 割以上合格</p>	

授業概要			
地域理学療法学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	藤原 美咲	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2(30)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 我が国に理学療法士が誕生して50年余りが経過し、疾病構造の変化や少子高齢社会への進展、障害を持つ人々に対するリハビリテーションのあり方や障害者福祉も大きく変化してきた。リハビリテーション医療も病院や施設から在宅にその比重を移し、地域社会を基盤としたリハビリテーション・サービスのシステム化が厚生労働省の施策として推進されている。こうした動きと呼応して理学療法も病院や施設内から住宅に、そして地域社会に根ざした取組みが求められてきている。疾病構造の変化や人口構造の転換により新たな医療ニーズを生起させ、治療方法や医療供給体制の変革を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 地域リハビリテーションの概念ならびにその構造を理解すると共に、その中で理学療法の果たすべき役割や責務を明確にし最適なインターベンションを図る術の理解に努める。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 地域リハビリテーションにおける医療・福祉制度を理解し、地域において理学療法士の果たすべき役割や責務を明確にすることを目標とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション、地域理学療法の概念		
2	地域リハビリテーションを支えるシステム (地域包括ケアシステム)		
3	各病期の役割、在宅医療について		
4	介護保険制度		
5	介護サービス		
6	グループワーク		
7	福祉用具、住宅改修		
8	社会資源、介護予防、地域包括ケア病棟		
9	多職種連携について①		
10	多職種連携について②		
11	多職種連携について③		
12	多職種連携について④		
13	多職種連携について⑤		
14	地域での役割① (産業理学療法、学校保健、災害リハビリテーション)		
15	地域での役割② (メンズ・ウィメンズヘルス)		
<p>【使用テキスト・参考文献】 使用せず 必要に応じて配布資料あり</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 試験 60点 課題 30点 (多職種連携 20点、グループワーク 10点) 出席点 10点 計 100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
生活環境学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	渋澤 里香	有
授業の回数	単位数 (時間数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1(30)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 私たちを取り巻く環境にはさまざまな要因があるが、その中でも生活環境は暮らしていくうえで大きくかかわってくる問題である。訓練室での動作のみでなく、自宅で過ごす上でより良い生活をおくるには何をしていくべきかを理学療法士の視点からとらえ、そのための法律および制度の理解と実際の環境整備を考えていく。また生活環境を整えるということは、その人の身体、精神、家族構成などさまざまな状態を把握していなければならない為、総合的評価ができるようことを最終的な目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 理学療法士として、リハビリテーションを施行する際に関わる機器及び諸制度を把握し、障害・疾患別の環境整備を整えるための知識・考え方を得る。</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 リハビリテーション関連機器及び生活環境整備に必要な機器を理解し、長所・短所ならびにその適応について説明ができる</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	生活環境学とは 生活環境学の概念		
2	環境整備について 生活環境の評価と改善計画		
3	社会保障と法的制度		
4	住宅環境 環境整備に必要な建築関連法規 建築図面のルールと読み方		
5	福祉用具・リハビリテーション機器		
6	地域環境と公共整備 公共の場での環境		
7	高齢者の支援サービスと環境整備		
8	まとめ		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 試験 80点, 平常点 20点 (出席・授業態度 10点, 課題・小テスト 10点) 計 100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
地域理学療法実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		実習	田端 吉彦・渋澤 里香・岡本 美幸 八木 佑介・尾関 直洋・藤原 美咲
授業の回数	単位数（時間数）	配当学年・時期	必修・選択
1回	1(45)	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 地域で通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの役割を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 地域で通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの実習を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 地域で通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの役割がわかる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
	<p>1年生 前期に学生はに 40 時間を 1 施設（通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）で実習する。ただし、止むを得ない事情があり校長が認める場合は、学内実習に代えることがある。</p> <p>デイリーノートと感想文の提出を行う。 実習報告会を行う。</p> <p>*対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>		
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】 実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて 60%以上の成果をもって合格とする。	

授業概要			
臨床実習 I (見学)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		実習	田端 吉彦・渋澤 里香・岡本 美幸 八木 佑介・尾関 直洋・藤原 美咲
授業の回数	単位数 (時間数) 1(45)	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での病院・施設の役割やリハビリテーション部門の概略を理解する ・社会や医療の中における理学療法の役割と責任を理解する ・社会人・職業人としての資質を養う ・理学療法士になることへの動機づけを高め、以後の学習への意欲を高める <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの理念及び理学療法の概念・概略を整理し理解する ・理学療法を学ぶ上で基礎となる医学・医療知識を学び、一般社会的教養を身につける ・身体的および精神的自己管理能力を身につける 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
内容・備考			
<p>1年次の所定の科目を履修した学生は学年末に40～45時間を1施設で実習する。ただし、止むを得ない事情があり校長が認める場合は、学内実習に代えることがある。</p> <p>デイリーノートと感想文の提出を求める。</p> <p>実習報告会を行う。</p> <p>*対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>			
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
		実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて60%以上の成果をもって合格とする。	

授業概要			
臨床実習Ⅱ（評価）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		実習	田端 吉彦・渋澤 里香・岡本 美幸 八木 佑介・尾関 直洋・藤原 美咲
授業の回数	単位数（時間数）	学年・時期	必修・選択
	3(135)	2年・後期	必修 必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内で学んだ知識・技術を、実習指導者の下で実際に症例に応用し、検査・測定する機会を得る <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識を元に理学療法について専門的知識の理解と評価技術の習得を図る ・日常の授業や学生生活の計画・実践の中から、問題解決能力・文章表現能力を身につける ・理学療法士の役割や専門的内容を、医療分野のみならず地域の保健・福祉分野まで含め理解する 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
内容・備考			
<p>2年次の所定の科目を履修した学生は、学年末に120時間を1施設で実施する。ただし、止むを得ない事情があり校長が認める場合は、学内実習に代えることがある。</p> <p>臨床参加型実習チェックリストの提出。実習報告会を行う。</p> <p>*実習前に、検査測定法を記憶するとともに反復練習をしておくこと。</p> <p>（注意）</p> <p>対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>			
【使用テキスト・参考文献】		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて60%以上の成果をもって合格とする。</p>	

授業概要			
臨床実習Ⅲ（臨床）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		実習	田端 吉彦・渋澤 里香・岡本 美幸 八木 佑介・尾関 直洋・藤原 美咲
授業の回数	単位数（時間数） 16(720)	学年・時期 3年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床実習Ⅱ（評価）の経験を生かし、臨床の場で臨床実習指導者の下患者の検査・測定を行い、臨床実習指導者とともに臨床思考過程を学ぶ ゴール設定を踏まえ臨床実習指導者のもと治療場面に参加できる <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者の総括的評価を学び治療を体験する 専門職としての責任感・信頼性を養う 人間観を含め調和のとれた社会人としての成長を目指す 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
内容・備考			
<p>1 施設 320 時間の実習を 2 施設でおこなう。ただし、止むを得ない事情があり校長が認める場合は、学内実習に代えることがある。</p> <p>臨床参加型実習チェックリストの提出を行う。</p> <p>実習報告会を行う。</p> <p>*実習前に、検査測定法を記憶するとともに反復練習をしておくこと。</p> <p>（注意）</p> <p>対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>			
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
		実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて 60%以上の成果をもって合格とする。	